

# 馬のミルクは栄養満点! 重種馬だけの馬乳牧場

## 「CHEVALAIT」

文=ヴァージニア・クウムジャン(Virginia Kouyoumdjan)

フランス北西部のノルマンディー地方に、大変珍しい牧場がある。200頭以上の重種馬から乳を搾り、販売する馬乳牧場「CHEVALAIT」(シュバレ)だ。



日本では馴染みのない馬乳。牧場名の「CHEVALAIT」とは、フランス語で「馬」を表す「CHEVAL」と「LAIT」(牛乳)をかけた造語。



手前がトレデュノールの種牡馬。遠くに見える黒い馬がベルシュロンの種牡馬。馬たちは、こうした広い放牧地で1年の大半を過ごす。



搾乳馬房。食べ放題の干し草が置かれているので、放牧後は馬が自ら馬房に入ってくる。

### 搾乳量は少ないが 栄養豊富な馬のミルク

馬乳とは一体どんな味なのか、そもそもそのまま飲めるものなのか、普段馴染みがないだけに自ずと興味を湧くというもの。

「CHEVALAIT」は2007年、ベルギー出身のジュリー&エティエンヌ・ドカイユ夫妻によってつくられた馬乳牧場だ。現在、種牡馬を含めたおよそ250頭の重種馬がここで暮らしている。

「牧場のオープン当初から重種馬に絞って来ました。なぜなら乳の量が多いから。馬は6割がベルシュロンで、4割がトレデュノール (TRAIT DU NORD) です」(ジュリー・ドカイユさん)。

馬が牛と大きく違うのは、仔馬がそばに

いないと乳が出ない点だ。仔馬が生まれてから5週間は仔馬に乳を飲ませるだけだが、6週目からは仔馬が飲んでいる最中、製品用の乳を分けてもらう。牛と比べて量は圧倒的に少なく、搾乳できるのは1日7~9リットル。絞られた乳はすぐさま低温殺菌して保存され、さまざまな製品に加工される。フレッシュミルクの賞味期限は30日だ。

馬乳は栄養価の高さが特徴で、人間の母乳に近いとか。特に湿疹や乾燥といった治療の難しい皮膚病に効果があるという。そのため馬乳は、牛乳の数倍の値段になる。

気になる味はというと、脂肪率が低いものの牛乳より濃く、少し甘みがあって飲みやすい。ただ、牛乳とは違う味なので、好き嫌いは分かれるかもしれない。

### ストレスのない 環境づくりが一番大切

母馬は基本的に、ストレスを感じない場所で、仔馬と一緒にいないと乳が出ない。そのためCHEVALAITでは、よりよい環境づくりをとっても大切にしている。

春から秋までのおよそ9か月間、馬たちは180ヘクタール以上の広々とした放牧場に放される。朝は搾乳用の馬房に餌を用意。すると、親子ともども我先にと放牧場から戻ってくる。餌の干し草は食べ放題だ。

馬房内では、独自に開発した機械を使って3回、搾乳を行なう。母馬には搾乳機が取り付けられているが、仔馬は自由に動き回ることができる。午後になると親子は放牧場へ戻り、朝まで過ごす。



搾乳を終えて、一目散に放牧地に向かう馬たち。

冬季、馬たちは搾乳馬房に入るが、搾乳の時間以外はのびのびと動ける空間があるので、実に快適そう。ジュリーさんはすべての馬の名前と来歴を知っていて、よく可愛がっているのが分かる。ここにいる馬たちは、何だかとても幸せそうだ。

### 1頭でも多くの牡馬が 活躍できる場を

牧場には種牡馬もいると書いたが、驚くことに1年中種付けされおり、年間通して仔馬が誕生する。ただ7月は人間のバカンスシーズンなので、出産に当たらないよう

調整しているとか。さすがはフランスというお国柄だけのことはある。

仔馬のほとんどがCHEVALAITの牧場に残るが、一部の牡馬は馬車や乗用馬として売られるそうだ。特に馬車馬としての需要は、日本とは比べようもなく高い。最近、街中のゴミを収集するには馬車と自動車、どちらが速いかという調査を行なったところ、トータルで馬車が勝利した。勝因は、馬車だと完全に停車しなくてもゴミを収集できるからだとか。

そのため、馬車によるゴミ収集を開始する計画も進んでいるとのこと。これは馬ファ

## Chevalait

にはうれしい話だ。

\*\*\*

CHEVALAITではフレッシュミルクはもちろん、パウダー状のミルク、馬乳を用いた石けんやシャンプー、リンスなどの製造も手がけている。全製品がオーガニック認証されているため、フランス国内では主にオーガニックショップで購入することができる。フレッシュミルク以外なら、日本からもホームページ (www.chevalait.com/fr) で注文が可能なので、まずはのぞいてみてはいかがでしょうかだろう。



仔馬から母馬の乳を分けてもらう。



残念ながら日本ではフレッシュミルクを味わうことができないが、生乳以外ならホームページから購入が可能。